

京都府立婦人教育会館のあり方について

(まとめ)

平成20年3月25日

京都府社会教育委員会議

目 次

1	はじめに	-----	1
2	府立婦人教育会館について		
	(1) 府立婦人教育会館設置の経過	-----	2
	(2) 府立婦人教育会館の現状と課題	-----	3
3	今後の府立婦人教育会館のあり方について	-----	6
4	今後の婦人（女性）教育のあり方について	-----	7
5	おわりに	-----	8
6	意見状況	-----	9
	・ 女性教育関連施設について		
	・ 名称について		
	・ 主催講座について		
	・ 貸館（サークル活動）について		
	・ 婦人教育会館のあり方について		

資 料

社会教育委員会議開催経過

社会教育委員名簿

1 はじめに

京都府社会教育委員会議は、平成19年8月、京都府教育委員会教育長から、今後の京都府の婦人教育のあり方とともに、平成17年12月の府監査委員の要望を踏まえて、府立婦人教育会館の名称、あり方について検討依頼を受けた。

府立婦人教育会館が昭和57年に婦人教育の振興を図るために設置されてから既に25年が経過し、その間、平成11年に「男女共同参画社会基本法」が施行されるなど、女性を取り巻く情勢は大きく変わってきた。昭和57年当時、府内に設置されている公立女性教育関連施設は、府立婦人教育会館だけであったが、現在は、府内各地に10施設が設置されている。

京都府においては、平成8年度に府女性総合センターが設置され、府立婦人教育会館が設置されている長岡京市においても、平成17年度に長岡京市立総合交流センター（バンビオ）内に女性交流支援センターが設置された。

このような状況の中で、府監査委員から、『府南部地域には、府立婦人教育会館と機能面が同種の施設が集中しており、婦人教育会館の名称を含めて、あり方を検討されたい』との要望があった。

社会教育委員会議では、今後の女性教育のあり方について、とりわけ府立婦人教育会館のあり方について検討してきたが、検討を行う際には、婦人教育会館をサークル活動を通じて利用されている方や、地元の女性団体の方の意見聴取を事務局に依頼し、そこでの意見も参考にしながら議論を進め、この度、「まとめ」として報告するものである。

府監査委員要望意見 <平成17年12月>

- ▶ 府南部地域には、府立婦人教育会館と機能面が同種の施設が集中しており、婦人教育会館の名称、機能を含めて、あり方を検討されたい。

2 府立婦人教育会館について

(1) 府立婦人教育会館設置の経過

国際連合は、昭和50年を「国際婦人年」と定め、「国際婦人年世界会議」の場で「世界行動計画」を採択した。

また、それに続く「国際婦人の十年」（昭和51年～昭和60年）において、「平等・発展・平和」のテーマの下に全世界において女性の地位向上をめざす取組が展開された。

国では、昭和52年に「国内行動計画」が策定され、積極的な取組が行われてきた結果、「女子差別撤廃条約」の批准をはじめ、「男女雇用機会均等法」の制定など、男女平等に関する制度的な整備が進んできた。

京都府においても、この動きに対応するため、昭和56年12月に女性問題に関する第1次行動計画「婦人の地位の向上と福祉の増進を図る京都府行動計画」が策定された。この計画期間は昭和57年度から昭和61年度の5年間であるが、計画期間の初年度である昭和57年に、府立婦人教育会館が長岡京市から土地の提供を受け設置された。

婦人教育会館設置の趣旨は、「社会の急激な進展に伴い、生涯教育が問われる状況の中で婦人の生活が大きく変貌し、特に家庭生活の変化により主婦の家事労働が著しく軽減され、余暇が増大し、学習の機会や社会参加が望まれているところから、婦人教育関係者に対し婦人教育に関する各種の研修、交流、情報資料の収集及び提供等を行う、広域的な婦人教育の振興を図ることを目的とする教育機関を設置する。」ということであった。

また、婦人教育会館の設置条例には、婦人教育会館の事業として、

- ① 婦人教育関係者の研修に関すること。
- ② 婦人教育会館の施設を婦人教育に関する交流の用に供すること。
- ③ 婦人教育に関する情報資料の収集及び提供に関すること。
- ④ 前3号に掲げるもののほか、婦人教育の振興に関し必要な事業

と規定されている。

婦人教育会館の概要については、資料4ページのとおりであるが、施設、設備及び物品の維持、保守に関する事務や使用料徴収事務については、京都府婦人教育振興協議会に委託されている。

○ 京都府婦人教育振興協議会

府立婦人教育会館の行う府内の婦人教育指導者の養成、交流学习、自主学習活動等婦人の学習機会を拡充するための婦人教育諸活動を援助、協力することにより、京都府における婦人教育の振興に寄与するため、婦人教育会館の設置を機に設立された。

役員は、乙訓地域の2市1町の首長、教育長及び女性団体の代表等、14名で組織されている。

(2) 府立婦人教育会館の現状と課題

府内公立女性教育関連施設の状況であるが、婦人教育会館が設置された昭和57年当時は当婦人教育会館のみが設置されているだけであったが、男女共同参画社会基本法施行（平成11年）後は、府内各地に設置されてきている。婦人教育会館の近隣では、京都市内に「府女性総合センター」、「京都市男女共同参画センター（ウィングス京都）」が設置され、平成15年度には宇治市に、平成17年度には婦人教育会館が設置されている長岡京市内に「長岡京市女性交流支援センター」が設置された。

この現状を「府南部地域には、府立婦人教育会館と機能面が同種の施設が集中しており」と監査委員から指摘されたと考える。

◆ 表1 府内公立女性教育関連施設の状況（平成19年4月現在）

市町村名	施設名	設置年度
京 都 府	京都府立婦人教育会館	昭和57年
井 手 町	井手町婦人研修センター	昭和63年
南 丹 市	南丹市園部女性の館	平成5年
京 都 市	京都市男女共同参画センター	平成6年
京 都 府	京都府女性総合センター	平成8年
綾 部 市	綾部市女性センター	平成10年
舞 鶴 市	舞鶴市女性センター	平成13年
福知山市	福知山市女性活動支援ルーム	平成14年
宇 治 市	宇治市男女共同参画支援センター	平成15年
長岡京市	長岡京市総合交流センター（パビナ） 「女性交流支援センター」	平成17年
城 陽 市	城陽市男女共同参画支援センター	平成18年
京田辺市	京田辺市女性交流支援ルーム	平成18年

監査委員の要望では、名称についても指摘されているが、府内における他の施設の名称は女性もしくは男女共同参画となっている。国においても「国立婦人教育会館」の名称が男女共同参画社会基本法施行後、平成13年に「国立女性教育会館」に変更された。

婦人教育会館は設置以来、女性が自立した社会参画を進めていくための研修講座の提供を行ってきており、社会情勢の変化に伴い、多様化・高度化する学習ニーズや生涯学習社会の進展等の新たな状況に対応した主催講座を実施してきている。

主催講座の状況は、資料（５ページ～９ページ）のとおり、女性の指導者養成研修や女性のための講座を実施しており、近年は府民のニーズを踏まえ男女がともに学べる生涯学習講座や文化教養講座が充実してきている。

さらに、幼児を持つ女性の学習参加を支援するため、昭和59年からは、保育ボランティアによる一時保育も実施している。

また、主催講座の参加者は、７割以上が乙訓地域からの参加者で占められており、広域的な利用がされていない状況である。

一方、館外で講座を実施した際には、婦人教育会館での開催講座と比較して開催地近辺の参加者の占める割合が高く、館外での講座には、身近な地域から参加されていることから、府内各地での講座開催が求められている状況がみられる。

◆ 表２ 婦人教育会館主催講座参加状況

		16年度	17年度	18年度
乙 訓	人数（人）	1,411	1,329	1,205
	割合（％）	71.1	74.2	76.8
京都市	人数（人）	253	150	158
	割合（％）	12.7	8.4	10.1
その他	人数（人）	322	312	206
	割合（％）	16.2	17.4	13.1
合 計	人数（人）	1,986	1,791	1,569
	割合（％）	100.0	100.0	100.0

◆ 表3 館外講座参加状況

		16年度	17年度	18年度
		山城、南丹、中丹、 丹後で開催	京都市内、中丹で 開催	乙訓で開催
乙 訓	人数（人）	30	26	82
	割合（％）	7.3	14.3	66.1
京都市	人数（人）	8	37	0
	割合（％）	1.9	20.3	0.0
その他	人数（人）	376 〔内訳 山城 65 以北 280 その他 31〕	119 〔内訳 山城 15 以北 93 その他 11〕	42 〔内訳 山城 20 以北 22 亀岡 0〕
	割合（％）	90.8	65.4	33.9
合 計	人数（人）	414	182	124
	割合（％）	100.0	100.0	100.0

婦人教育会館は主催事業を行うほか、婦人教育に関する交流の場の提供を行っている。指導者の育成やサークル活動の振興を図った結果、婦人教育会館を拠点とした様々なサークル活動が行われており、昭和58年度の会館利用サークル数は、13サークルであったが、平成19年度は117サークルが登録されており、女性の活動の場として定着していることが分かる。

しかし、サークル活動での婦人教育会館利用者の多数が乙訓地域の方であり、地元を中心に利用されている現状であるとともに、サークルによっては、男性の会員も含まれており、各市町村の公民館等と同様の利用の実態がみられる。

◆ 表4 婦人教育会館サークル利用状況

		17年度		18年度		19年度	
		サークル数	会員数	サークル数	会員数	サークル数	会員数
乙 訓 管 内	向日市	12	345	10	189	8	175
	割合（％）	12.1	16.9	9.6	9.0	6.8	7.3
	長岡京市	64	1,275	68	1,396	75	1,522
	割合（％）	64.7	62.3	65.4	66.7	64.1	63.2
	大山崎町	3	39	4	59	6	87
	割合（％）	3.0	1.9	3.8	2.8	5.1	3.6
	小 計	79	1,659	82	1,644	89	1,784
	割合（％）	79.8	81.1	78.8	78.5	76.1	74.1

他の市町	20	386	22	451	28	623
割合 (%)	20.2	18.9	21.2	21.5	23.9	25.9
計	99	2,045	104	2,095	117	2,407
割合 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※1 サークル届出者の住所で整理

2 サークル数には休会も含む。

3 今後の府立婦人教育会館のあり方について

府立婦人教育会館は昭和57年の設置以来、女性が自立し社会参画を進めていくための研修や交流、情報提供の場、さらには、府民の方々に対する生涯学習の機会を提供するための施設として活用されてきた。

会館の設立当時は女性の自主活動の振興を目指したサークル活動の推進や指導者の育成に力を入れるとともに、京都府連合婦人会等の団体等と連携しながら、女性団体の育成に努めてきた。そのため、会館の利用者からは、「サークル活動の拠点として婦人教育会館が必要だ」という意見も多いが、現在の利用の実態は、市町村の公民館や生涯学習センターと同種の生涯学習機能を果たす施設としての男女の利用が多く見受けられ、府内全域を対象とするというより、近隣の地域の方々の学びの場として利用されている状況にある。

また、当会館開設から25年が経過する中、現在は、周辺に同種の施設が設置され、設立当時とは異なる状況が見られる。

社会教育委員会議での協議の場では、このような状況の変化を踏まえ、南北に長い京都府の地理的条件の下で、現在の拠点方式としての婦人教育会館としての役割は終えたので廃止すべきとの意見がある。

これらの意見や京都府監査委員の意見要望を踏まえると広域的な行政を推進する役割を担う府の立場として、婦人教育会館を存続させる必要性は乏しく、廃止を含めて検討する必要がある。

廃止等の検討に当たっては、利用者への丁寧な説明を行うとともに、土地の無償提供者である長岡京市とも十分協議する必要がある。

その際、当該施設が国の公立社会教育施設整備費補助金を受けて建設された建物であることから、現施設の有効利用という観点も十分踏まえ、幅広く検討されることを期待するものである。

4 今後の婦人（女性）教育のあり方について

今後、京都府教育委員会は、歴史的経過の中で、婦人という名称が女性に変わっていることを踏まえ、婦人教育や男女共同参画に関する事業、女性の指導者研修・女性団体への支援、情報提供などに関して、現在使用されている婦人教育という総称を女性教育（女性のための教育）と改めるべきで、名称の変更の具体的な手続きについては、「3 今後の府立婦人教育会館のあり方」で述べた、今後のあり方と並行して検討する必要がある。

また、女性教育の拠点としての府立婦人教育会館が果たしてきた役割を十分認識し、男女共同参画の推進に関する正しい理解と認識を深め、多様な学習活動の充実を図るために、女性教育担当者や女性団体を中心に社会教育を推進する人たちのための研修活動を一層充実し、府内全域で後退することがないように配慮する必要がある。

さらに、情報資料の収集及び提供、女性団体への支援、広域的な女性教育の振興についても、引き続き取り組む必要がある。

その他の男女共同参画に関する講座の実施やサークル活動の拠点としての施設提供は、現在も、住民に身近な市町村で実施されているが、今後も、府の広域的な機能と市町村が持つ機能を連携させて、実施することが望ましい。

また、京都府教育委員会が、女性教育担当者や社会教育を推進する人たちのための研修講座等を実施する際には、南北に長い京都府の特性から、参加しやすい環境を整える必要があり、そのためにも、市町村教育委員会と十分連携・協力し、可能な限り、府民の身近な地域で講座が開催されるよう要望する。

併せて、京都府民総合交流プラザ（京都テルサ）内にある「京都府女性総合センター」とも協調しながら、京都府内の女性教育が一層推進されるよう期待する。

5 おわりに

社会教育委員会議では、平成19年8月から平成20年2月にかけて集中して、京都府における府立婦人教育会館のあり方を含む今後の女性教育について議論を重ね、基本的な方向性についてここにまとめた。

府立婦人教育会館の今後のあり方は、府において検討されていくと思うが、いずれの場合であっても、今後、京都府教育委員会において、この「まとめ」の趣旨を生かし、京都府の女性教育がさらに充実していくことを強く期待するものである。

6 意見状況

<女性教育関連施設について>

○ 利用者の意見

- ▶ 宇治市や京都市内に女性関連施設があるが、府全体からみれば、南部地区かもしれないが、乙訓地域からは非常に遠い。
- ▶ 婦人教育会館は便利であり、利用する方はいろいろな所から来られている。バンビオ（長岡京市中央生涯学習センター）は駐車料金がかかるが、ここは無料である。
- ▶ 時代の流れで、婦人教育会館設置時とは状況が変わってきている。この会館ができた時は、婦人が活動する場が少なかったが、今は、それぞれの地域に女性が活動する会館ができている。
- ▶ みんなが集まってふれあえる施設として、末永く続けていただきたい。

○ 委員の意見

- ▶ 京都府女性総合センターが設置された時に、婦人教育会館は廃止されると思っていた。
- ▶ 同じような目的の施設が複数設置されているので、廃止すべきである。
- ▶ 女性同士をつなぐ拠点としては、住民に身近な地元で活動しやすい場所を提供していくのが一番ではないか。

<名称について>

○ 利用者の意見

- ▶ 婦人教育会館という名前は残してほしいが、もし変えるのであれば、婦人教育会館に関連した名前にしてほしい。
- ▶ 全国的な会館の名称を見ていると男女共同参画センターになってきている。時代が変わると色々変わっていくと思うが、それに振り回されない良い名前にされたいと思う。

○ 委員の意見

- ▶ 婦人教育会館という名称が男性にとっては敷居が高い。
- ▶ 老若男女問わず、誰もが使いやすい名称にすべき。
- ▶ 婦人という名称は、既婚の女性対象という感じである。
- ▶ 歴史的経過の中で、婦人という名称は女性に変わってきており、婦人という言葉そのものを使わなくなっている。教育という名称も、従来の生涯教育から生涯学習に変わってきている。
- ▶ 現在の婦人教育会館は、設立当初の趣旨からは変わってきているので、名称も内容もすべて変えるべき。

<主催講座について>

○ 利用者の意見

- ▶ 婦人教育会館の業務は講座の実施であり、講座の受講後、学習を続けたい方が会館を利用している。講座をきっかけに人が集まっていくという婦人教育会館のあり方が良いのではないかと思う。
- ▶ 一昔前までは、府の女性リーダー研修などで来ていたが、最近はそのような講座もない。
- ▶ パソコンの講座は、次のステップとして重要な拠点となっている。女性でパソコンを習いたい、マスターしたいと言われる方の拠点として婦人教育会館は必要
- ▶ よい講座をされているが、交通の便が悪く参加しにくい。
- ▶ 市町村の公民館サークルは住民に限定され、町民以外の参加者は非常に少ない。市町村を横断していろいろなことを学べる、こういう広域的な施設が必要である。

○ 委員の意見

- ▶ 館外で実施の事業については、開催地の地元の参加人数が多い。婦人教育会館での実施にこだわらず、市町村と連携して府内各地での開催が必要ではないか。
- ▶ 生涯学習の講座は市町村、大学、公民館でも実施されているが、府で担うべき講座は何かということを検討しながら進めていかなければならない。

<貸館（サークル活動）について>

○ 利用者の意見

- ▶ パソコンや陶芸の窯が自由に使えたり、染色ができたという機能的に同じ場所が他にあるのか。
- ▶ 陶芸の窯で灯油を使っているのは、ここだけである。
- ▶ 染色は京都の伝統工芸でありながら、職業としては習うことができ、単発的に体験できる所もあるが、自分が楽しんで活動できる場所は、婦人教育会館のほか、京都府内に一切ない。
- ▶ 婦人教育会館のサークル会員数は年々増えている。増えているということは、需要があり、住民の利用度が高いということである。
- ▶ 地元に中央公民館があり、そこでも活動を行っているが、そこは抽選であるため、場所が確保できないときがある。その際に婦人教育会館で活動する。
- ▶ 高齢化し、配偶者のどちらかが先立たれた場合、婦人教育会館でのサークル活動が生きがいになっている。会館が活動の拠点となって、サークル活動で生きがいを感じるためこの会館は必要である。
- ▶ 団塊の世代が増え、男性の参加が増えている。婦人教育会館を拠点としたサークルができているので、会館がなくなると路頭に迷ってしまう。
- ▶ 優秀な人材が25年の間で育ってきた。サークルの者で助けられることがあれば、喜んでする。

○ 委員の意見

- ▶ サークルの内容をみると公民館で活動すべきサークル活動に利用されるなど、市町村の公民館等と同様の利用の実態がある。さらに、利用者のほとんどが乙訓地域の人である実態もあるが、広域的な行政を進める府立の施設としていつまでも設置しておく必要があるのか。
- ▶ サークルで使っておられる場所であり、残してほしいという意見がある。設置当時は会館にいろいろな機能を負わせていたが、新しい施設が設置され、複数施設があるということで、監査委員の要望が出てきたことが分かった。施設として必要ではあるが、今までの形での必要性はないことを感じている。

＜婦人教育会館のあり方について＞

○ 利用者の意見

- ▶ 京都府立の施設としての役割を、今後、どう捉えていくのかが問題になる。各地に府立の建物があるので、婦人教育会館が長岡京市に設置されていても構わないと思うが、利用者がほとんど乙訓地域の人であるとしたら、府立の建物としては、今後変えていく必要がある。
- ▶ 時代の流れがあり、婦人教育会館ができた時とは状況は変わってきている。当会館ができた時は、女性が活動する場所が少なかったが、今は、それぞれの地域に女性が活動する場ができています。
- ▶ 婦人教育会館は乙訓地域密着ということで必要である。
- ▶ 25年を経て、現在は男女の教育の場としての施設になっており、内容もほとんど男女を中心にした事業を主催事業として取り組んでられる関係上、府の会館として存続するのであれば、婦人教育会館という名称をまず変えて、内容も生涯学習的なものが中心であるので、内容も女性中心から、男女共に学べるように変えた事業展開で府として存続していただくという形がよい。
- ▶ 府の施設であるべきなのか、長岡京市に移管した方が良いのかは、分からないが、なくなるということは避けてほしい。
- ▶ 当会館が長岡京市だけの施設になると、近隣の他の市町村の方の利用が難しくなる。

○ 委員の意見

- ▶ 婦人教育会館が設立された25年前は女性の活動の場としていろいろな機能を果たしていた。府女性総合センターができてからは、京都駅から近い府女性総合センターを利用している。会館を利用されている方の意見も大切にしながら、府の施設として、考えていかなければならないと思う。婦人教育会館を残して、長岡京市近辺の人達がより活性化し、有意義に利用できるような施設として考えていかなければならないが、府の施設として必要かどうか。
- ▶ 婦人教育会館ができた当時はよかったが、府女性総合センターができた段階で婦人教育会館の役目は終わったという気がする。
利用者のほとんどが乙訓地域の人であり、府立の施設としていつまでもおいておくべきなのかと思った。指定管理者という制度もあり、地元に移管するという方法もあるので、検討されたらどうか。
- ▶ 婦人教育会館のあるなしに関わらず、京都府全体として、女性の社会参加や団体の支援は京都府として実施しなければならない。そのためには、生活に近い場所で活動していくことが基本になってくる。婦人教育会館は長岡京市に設置されているので、地元と十分に相談しながら、今後の婦人教育会館のあり方を考えていく必要がある。
- ▶ 時代の流れがあり、民間委託や指定管理者制度も一つの流れだと思う。いいか悪いかは別として、活用方法を議論するのも必要。なくなって困るのは地元の人であるので、地元密着型で再スタートするのがよい。
- ▶ 人権教育の一つの大きな柱としての女性教育の側面があって、その拠点施設が府立でなくなるというのは大きなことであると思う。拠点施設がなくなっていいのかどうか。京都府教育委員会として実施している指導者研修と婦人への支援と教材づくりができるシステムが担保されるのであれば、婦人教育会館はいらないということになるので、その点が知りたい。

資 料

社会教育委員会議における検討依頼について

1 検討課題

京都府立婦人教育会館のあり方

2 課題設定の理由

平成17年12月に京都府監査委員から「府南部地域には、府立婦人教育会館と機能面が同種の施設が集中しており、婦人教育会館の名称、機能を含めてあり方を検討されたい。」と要望意見を受けた。

京都府立婦人教育会館は昭和57年に婦人教育の振興を図るため設置されて以来、四半世紀に渡り、女性を取り巻く新しい社会情勢に対応しながら、様々な事業を実施してきた。

この度、京都府監査委員からの要望を踏まえ、京都府教育委員会として婦人教育に果たすべき役割について協議し、府立婦人教育会館のあり方を御検討願ひ、今後の本府の婦人教育施策の推進を期したい。

京都府立婦人教育会館設置の流れ

■ 国際婦人年以降の男女共同参画に関する国内外及び京都府の動き

		国連の動き	日本の動き	京都府の動き
1975年 (昭50)		国際婦人年(目標:平等 発展 平和) 国際婦人年世界会議(メキシコシティ)「世界行動計画」採択	婦人問題企画推進本部設置 婦人問題企画推進本部会議開催	
国連婦人の十年	1977年 (昭52)		「国内行動計画」策定 国立婦人教育会館開館	女性政策担当窓口設置 京都府婦人関係行政連絡会設置 京都府婦人問題協議会設置
	1979年 (昭54)	国連第34回総会「女子差別撤廃条約」採択		「京都府婦人大学」開設 「京都府婦人対策推進会議」設置
	1980年 (昭55)	「国連婦人の十年」中間年世界会議(コペンハーゲン) 「国連婦人の十年後半期行動プログラム」採択		
	1981年 (昭56)		「国内行動計画後期重点目標」策定	「京都府婦人の船」実施 「婦人の地位の向上と福祉の増進を図る京都府行動計画」策定
	1982年 (昭57)			京都府立婦人教育会館開館 「京都府婦人海外研修」実施
76 ～ 85	1985年 (昭60)	「国連婦人の十年」ナイロビ世界会議(西暦2000年に向けての)「婦人の地位向上のためのナイロビ将来戦略」採択	「国籍法」改正 「男女雇用機会均等法」公布 「女子差別撤廃条約」批准	国連婦人の十年最終年記念大会ー京都女性のフォーラム'85ー開催
1986年(昭61)			婦人問題企画推進本部拡充:構成を全省庁に拡大 婦人問題企画推進有識者会議開催	
1987年(昭62)			「西暦2000年に向けての新国内行動計画」策定	京都府婦人関係行政推進会議発足 京都府婦人問題検討会議設置
1989年(平元)			学習指導要領の改訂(高等学校家庭科の男女必修等)	「KYOのあけぼのプラン」策定 女性政策課設置 女性政策推進本部設置 京都府女性政策推進専門家会議設置 「KYOのあけぼのフェスティバル」開催、「京都府あけぼの賞」創設
1990年(平2)		国連婦人の地位委員会拡大会議 国連経済社会理事会「婦人の地位向上のためのナイロビ将来戦略に関する第1回見直しと評価に伴う勧告及び結論」採択		
1991年(平3)			「育児休業法」公布	
1993年(平5)		国連第48回総会「女性に対する暴力の撤廃に関する宣言」採択		
1994年(平6)			男女共同参画室設置 男女共同参画審議会設置(政令) 男女共同参画推進本部設置	
1995年(平7)		第4回世界女性会議ー平等、開発、平和のための行動(北京)「北京宣言及び行動綱領」採択	「育児休業法」改正(介護休業制度の法制化)	「京の女性史」発刊

	国連の動き	日本の動き	京都府の動き
1996年(平8)		男女共同参画推進連携会議(えがりてネットワーク)発足 「男女共同参画2000年プラン」策定	「KYOのあけぼのプラン」改定 京都府女性総合センター設置
1997年(平9)		男女共同参画審議会設置(法律) 「男女雇用機会均等法」改正	
1998年(平10)		「男女共同参画社会基本法ー男女共同参画社会を形成するための基礎的条件づくりー」を答申	
1999年(平11)		「男女共同参画社会基本法」公布、施行	
2000年(平12)	国連特別総会「女性2000年会議」開催(ニューヨーク)	「男女共同参画基本計画」策定	
2001年(平13)		「国立女性教育会館」に名称変更 男女共同参画会議設置、男女共同参画局設置 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」施行 第1回男女共同参画週間閣議決定「仕事と子育ての両立支援策の方針について」	「京都府男女共同参画計画ー新KYOのあけぼのプラン」策定
2003年(平15)		男女共同参画推進本部決定「女性のチャレンジ支援策の推進について」	
2004年(平16)		「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」改正及び同法に基づく基本方針策定	「京都府男女共同参画推進条例」施行 「京都府男女共同参画審議会」設置 「女性チャレンジ相談」開 「女性チャレンジネットワーク会議」開催
2005年(平17)	国連「北京+10」世界閣僚級会合(ニューヨーク)	「男女共同参画基本計画(第2次)」策定 「女性の再チャレンジ支援プラン」策定	審議会「京都府におけるチャレンジ支援方策について」意見書提出 「女性チャレンジオフィス」開設 アクションプラン「女性発・地域元気力「わくわく」プラン」策定
2006年(平18)		男女共同参画推進本部決定「国の審議会等における女性委員の登用の促進について」 「男女雇用機会均等法」改正	配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護・自立支援に関する計画」策定 「女性の再就職支援コーナー」設置
2007年(平19)			新KYOのあけぼのプラン後期施策の重点項目及び数値目標策定

府立婦人教育会館について

1 施設の状況

所在地	京都府長岡京市長法寺谷山13-1		
施設の概要	敷地	4,213㎡（長岡京市からの借用）	
	建物	RC-2延 2,054㎡ 大研修室、第1～5研修室（第4研修室にPC20台設置） 音楽・視聴覚研修室、実技研修室（調理実習）、会議室 図書・資料室、託児室等	
開館	昭和57年6月17日	管理	京都府婦人教育振興協議会に委託

2 設置の趣旨

社会の急激な進展に伴い、生涯教育が問われる状況の中で婦人の生活が大きく変貌し、特に家庭生活の変化により主婦の家事労働が著しく軽減され、余暇が増大し、学習の機会や社会参加が望まれているところから、婦人教育関係者に対し婦人教育に関する各種の研修、交流、情報資料の収集及び提供等を行う、広域的な婦人教育の振興を図ることを目的とする、広範的な婦人教育の振興を図ることを目的とする教育機関を設置する。

3 事業（条例第2条）

- (1) 婦人教育関係者の研修に関すること。
- (2) 婦人教育会館の施設を婦人教育に関する交流の用に供すること。
- (3) 婦人教育に関する情報資料の収集及び提供に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、婦人教育の振興に関し必要な事業

4 京都府婦人教育振興協議会について

(1) 目的

京都府立婦人教育会館の実施する婦人教育への諸活動への援助・協力等により、婦人教育の振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業

- ・ 京都府立婦人教育会館の行う婦人教育諸活動に対する奨励・援助
- ・ 京都府教育委員会と契約に基づく受託業務の実施
- ・ その他目的を達成するために必要な事業

(3) 委託業務

- ・ 婦人教育会館の施設、設備及び物品の維持、保守に関する事務
- ・ 使用料徴収事務

婦人教育会館主催事業の変遷

	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	備考
婦人教育指導者研修会 (府連合婦人会共催) 女性リーダー研修																											60～⑩実施 ⑪は府教委で 実施
婦人教育リーダー養成講座																											58～⑧実施
館外講座																											②から⑩実施
交流学習																											59～⑦実施
婦人問題講座、女性学 セミナー																											57～実施
文化教養講座																											58～実施
親子体験																											58～実施
就職支援																											⑨～実施

平成16年度 京都府立婦人教育会館主催事業一覧表

事業名	期 日	参加者 人数	講 師 名
京都府地域女性リーダー 研修講座	健康づくりのための地域ボランティア・地域づくり	11月25日(木)	44 日本レクレーション協会 山本 登志昭
	けんこう新発見(福知山…公開講座)	1月20日(木)	110 京都工場保健会副所長 朝枝 哲也
	食を通しての健康づくり	2月17日(木)	52 武庫川女子大学助教授 武庫川女子大学講師 小西 すず 鈴木 秋子
ふれーる大学講座			
男も女も輝く社会づくり	豊かな人生を築くコツ	5月29日(土)	23 メンズセンター運営委員長 中村 彰
男女共同参画社会の形成	わたしが考える男女共同参画社会	6月3日(木)	15 京都女子大学教授 横村 久子
	子どもが地域で輝く、大人の地域活動	6月10日(木)	9 からくさ塾塾長 小嶋 明
	退職後の人生設計等	6月17日(木)	24 前八木町教育長 田中 晋
壮年期・高齢期の豊かな 生活をめざして	男の更年期・女の更年期	7月1日(木)	27 関西医科大学教授 松田 公志
	健康によい食事	7月8日(木)	29 武庫川女子大学講師 鈴木 秋子
	体を動かしてストレス解消	7月15日(木)	20 スポーツインストラクター 大倉 奈保美
	社会保障制度・社会福祉制度について考える	8月24日(火)	30 社会保険労務士前田裕子事務所所長 前田 裕子
	年金について考える	8月31日(火)	36 社会保険労務士前田裕子事務所所長 前田 裕子
思春期の子育て	思春期を考える～拒食と過食～	10月7日(木)	17 京都教育大学保健管理センター教授 中村 道彦
	思春期を考える～怒りをコントロールするための学習～	10月14日(木)	15 京都教育大学保健管理センター教授 中村 道彦
	世界にみる子育て	10月21日(木)	21 地球女倶楽部イナナ関西支部長 永井由美子
子育て講座	親子で人形劇観賞	11月27日(土)	55 人形劇団「小さな子どもたちと楽しむ バベットおさるのたっくん」 辻野 明子
	心と体の健康を考える	12月4日(土)	13 京都府立医科大学名誉教授 楠 智一
	学童期から思春期の子どもの心理を探る ～キレない子どもを育てるために～	12月11日(土)	20 平安女学院助教授 深江 誠子
再就職準備セミナー	21世紀職業事業団との共催	10月26日(火)	19 社会保険労務士 佐竹 康男
	21世紀職業事業団との共催	10月27日(水)	22 社会保険労務士 佐竹 康男
	21世紀職業事業団との共催	10月28日(木)	20 社会保険労務士 佐竹 康男
みんなで考えよう	セクシュアルハラスメントと男女の望ましい関係	11月11日(木)	15 弁護士 大脇 美保
	DVの実態から学ぶ	11月18日(木)	12 ウィメンズ・カウンセリング京都代表 井上 摩耶子
文学の中の女性	樋口一葉文学の中の女性を読み解く	6月1日(火)	35 京都橘女子大学日本語日本文学科助教授 野村 幸一郎
	尾崎紅葉文学の中の女性を読み解く	6月8日(火)	36 京都橘女子大学日本語日本文学科助教授 野村 幸一郎
	源氏物語の中の女性を読み解く①	10月5日(火)	33 京都橘女子大学日本語日本文学科助教授 鈴木 紀子
	源氏物語の中の女性を読み解く②	10月12日(火)	35 京都橘女子大学日本語日本文学科助教授 鈴木 紀子
館外学習講座(府下4会場)	丹後地域	8月28日(土)	53 大津市教育相談センター相談員 三原 透
	子どもが輝く家庭・地域 中丹地域(綾部市中央公民館)	9月8日(水)	55
	南丹地域(園部中央公民館)	9月11日(土)	88
	山城地域(京田辺市立中部住民センター)	6月19日(土)	57
秋の特別講座(館外学習)	京の歴史を学ぶ①(宇治平等院・宇治神社・宇治上神社)	11月5日(金)	21 京都府文化財保護課 建造物第2係主任 小宮 睦
冬の特別講座(館外学習)	京の歴史を学ぶ②(発掘のおもしろさを知る)	2月4日(金)	30 京都府文化財保護課 記念物係主査 久保 哲正
文化教養講座	中国文化の魅力～水墨画を通して～	6月24日(木)	59 関西学院大学大学院講師 陳 允陸
	コンピューター基礎講座(基礎・WORD・EXCEL)	5月～12月	632 社会人講師 他(ボランティアスタッフ)
	ハンギングバスケット	8月26日(木)	29 京都府立農芸高等学校 教師、生徒
	魅力的な広報紙づくり	6月12, 19, 26日(土)	98 京都新聞社編集センター記者 塚本 宏
	トール・ペインティング	9月14, 28日(火)	58 トールペインティングサークル代表 野久保洋子
	剪画教室	11月9, 16日(火)	20 日本剪画協会副会長 大月 透
親子体験学習講座	陶芸教室	7月25, 8月8日(日)	81 趣味の陶芸家 吉田 順一 植田 恭司
	植物観察・採集・標本づくり	7月30日(金)	54 京都自然生物学会代表 田中 徹
	木工教室	8月19日(木)	27 京都府立北桑田高等学校 教師、生徒
	ビーズでかざろう	8月4日(水)	33 ビーズ講師 森田 富貴子 石見 彰子
	そば打ち	8月25日(水)	46 (有)かやぶきの里代表取締役 中野 邦治
	親子で音楽を楽しもう①	7月23日(金)	81 ピアノ講師 柚田 ゆみ
	親子で音楽を楽しもう②	12月24日(金)	59 つぼみの会 かめおかデレーノトリアンサンプル メンバーの皆様
子ども体験教室	茶道子ども教室～茶道っておもしろい～	7/20, 27, 8/3(火)	32 長岡京市女性の会 茶道部の皆様
合 計		114講座	2,400

平成17年度 京都府立婦人教育会館主催事業一覧表

事業名		期 日	参加者人数(人)	講 師 名
ふれーる大学講座				
京都府地域女性リーダー研修会	地域社会の安心・安全 ～安心・安全な地づくり～	11月30日(水)	97	長岡京消防署庶務予防課予防係長 宮津市連合婦人会会長 大江町社会振興協議会ボランティアコーディネーター 小林 薫 栗田 澄子 早川 貴子
男と女の共同体	少子化問題を考える	5月21日(土)	14	京都学園大学経営学部教授 大石 友子
	男女で考える家族の在り方 お父さんの育児休業奮闘記	5月28日(土)	19	京都学園大学経営学部教授 京都新聞社社会報道部 大石 友子 目黒 重幸
	家庭生活と高齢者問題	6月28日(火)	14	龍谷大学社会学部社会学科助手 甲斐 靖之
「2007年問題」を考える	デジタル時代のアナログ思考	6月4日(土)	21	株式会社グローバル・マネジメント代表取締役 笹川 大助
	社会からリストラされないために	6月11日(土)	24	株式会社グローバル・マネジメント代表取締役 笹川 大助
	企業の危機管理から学ぶ	6月18日(土)	23	株式会社グローバル・マネジメント代表取締役 笹川 大助
楽しい読書	子どもと楽しむ読書のひととき	6月7日(火)	25	児童文学研究会代表 齊藤壽始子
	読む言葉・語る言葉	6月14日(火)	23	児童文学研究会代表 齊藤壽始子
	子どもと一緒に楽しみたい本	6月21日(火)	30	児童文学研究会代表 齊藤壽始子
メディア科学	メディアと人間関係Ⅰ	7月6日(水)	18	同志社大学大学院教授 佐伯 順子
	メディアと人間関係Ⅱ	7月15日(金)	15	同志社大学社会学部メディア学科助教授 柴内 康文
子育て・親育ち	子育て支援事業	9月16日(金)	13	特定非営利活動法人 働きたい女たちのネットワーク理事長 吉田 秀子
	地域における子育て支援：英国との比較	9月22日(木)	15	龍谷大学社会学部地域福祉学科教授 清水 隆則
文学の中の少女	若草物語	9月30日(金)	20	梅花女子大学教授 廉岡 糸子
	小公子	10月7日(金)	13	梅花女子大学教授 廉岡 糸子
	小公女	10月14日(金)	11	梅花女子大学教授 廉岡 糸子
	秘密の花園	10月21日(金)	11	梅花女子大学教授 廉岡 糸子
健康づくり	健康なストレッチ体操Ⅰ～Ⅴ	10/4・11・18・25・11/1(各・火)	181	スポーツインストラクター 大倉奈保美
	ストレスへの対処と心の資源	12月2日(金)	24	同志社大学文学部大学院文学研究科教授 橋本 宰
	歌とレクリエーションでリラックス	12月9日(金)	13	日本レクリエーション協会評議員理事 中宅 正啓
健やかな暮らし	社会保障制度についてⅠ	11月8日(火)	19	社会保険労務士 前田 裕子
	社会保障制度についてⅡ	11月15日(火)	15	社会保険労務士 前田 裕子
	年金についてⅠ	1月19日(木)	26	社会保険労務士 前田 裕子
	年金についてⅡ	1月26日(木)	26	社会保険労務士 前田 裕子
文化教養	コンピューター基礎講座(基礎・WORD・XCEL)	6月～11月	440	社会人講師他(ボランティアスタッフ) 佐藤・水野 近野・山本
	魅力的な広報紙づくり	6/25・7/2・9・16(各・土)	47	京都新聞社整理センター 塚本 宏
	鉢づくりと寄せ植え	8/19・26(金)	44	京都府立農芸高等学校 教師、生徒
	手作り人形を作ってみようⅠ～Ⅲ	11/10・17・24(各・木)	30	人形劇団 辻野 明子
	親子で人形劇鑑賞	11月26日(土)	42	人形劇団 辻野 明子
	剪画教室	12月15日(木)	22	日本剪画協会副会長 大月 透
親子体験学習講座				
親子体験学習講座	陶芸教室	7/24・8/7(日)	107	趣味の陶芸家 吉田順一 植田恭司
	科学マジック ～自然の原理を知る手品～	7月27日(水)	46	科学マジッククリエイター 村田 直之
	植物観察	7月29日(金)	40	京都自然生物学会代表 田中 徹
	ビーズでかざろう	8月3日(水)	24	ビーズ講師 森田富貴子 石見 彰子
	生活を彩るプランター寄せ植え	8月9日(火)	13	京都府立柱高等学校 教師、生徒
	そば打ち	8月24日(水)	36	(有)かやぶきの里代表取締役 中野 邦治
	親子で音楽を楽しもうⅠ	7月19日(火)	111	シンガーソングライター 小林 秀子
	親子で音楽を楽しもうⅡ	12月17日(土)	49	声楽家 田丸 千晶
館外学習講座				
館外学習講座	京の歴史を学ぶ(大徳寺拝観ほか)	9月9日(金)	40	京都府教育委員会文化財保護課 森田 卓郎
	京の歴史を学ぶ(知恩院拝観ほか)	11月9日(水)	40	京都府教育委員会文化財保護課 奥野 裕樹
	地域社会の安心・安全(中丹地域)	9月29日(木)	102	平安女学院大学生活環境学部生活環境デザイン学科教授 岸本 妙子
再就職準備セミナー	21世紀職業事業団との共催	10月26日(水)	10	松下エクセルスタッフ(株)京滋支店支店長 中村 真紀
	21世紀職業事業団との共催	10月27日(木)	10	松下エクセルスタッフ(株)京滋支店支店長 中村 真紀
	21世紀職業事業団との共催	10月28日(金)	10	GARDENING SPOD TAISHIEN LAND SCAPE 専務取締役 河津 秀巳
合 計		99講座	1,973	

平成18年度 府立婦人教育会館主催事業一覧表

事業名		期 日	参加者人数(人)	講 師 名	
今の時代を考えるために！	人生最高のありがとう①		6月20日 (火)	16	生活デザイン研究所 太田 空真
	人生最高のありがとう②		7月4日 (火)	22	生活デザイン研究所 太田 空真
	あなたの夫は職場以外に居場所がありますか		6月29日 (木)	17	天理大学人間学部人間関係学科生涯教育専攻教授 今西 幸蔵
	ふれーる落語		7月11日 (火)	28	桂 三枝門下 落語家 桂 三扇
	誰もが、その人らしく生きられるように		7月20日 (木)	14	高齢生活研究所 所長 排泄総合研究所 所長 浜田きよ子
	事例から学ぶ 夫婦・親子のあり方！		9月15日 (金)	18	市民共同法律事務所 弁護士 大脇 美保
	あなたも裁判員制度を考える		9月20日 (水)	35	京都新聞社論説委員 井戸 洋
	なんでも包もう風呂敷ラッピング講座		6月2日 (金)	39	ふろしき研究会 代表 森田知都子
	歴史探訪Ⅰ	西国街道今昔物語	6月8日 (木)	62	大山崎町教育委員会生涯学習室課長補佐 林 亨
	トール・ペインティングに挑戦！		6月30日 (金)	25	トール・ペインティングサークル代表 野久保洋子
	心にひびく「よみきかせ」		7月8日 (土)	24	IBBY日本国際児童図書評議会会員 大石 進
	鉢づくりと寄せ植え講座		8月17・24日 (木)	64	京都府立農芸高等学校 教師、生徒
	男の料理教室（そば打ち）		8月26日 (土)	16	(有) かやぶきの里代表取締役 中野 邦治
	歴史探訪Ⅱ	長岡京京都の謎	10月4日 (水)	62	向日市埋蔵文化財センター 國下多美樹
	剪画に挑戦		10月11日 (水)	24	日本剪画副会長 大月 透
	生きる力と読書		10月18日 (水)	29	八幡市民図書館司書 出口 宏子
	再就職準備セミナー（21世紀職業団との共催）		11月7日 (火)	19	株式会社ワコールキャリアサービス教育事業課長兼チーフインストラクター 水谷伊久子
			11月8日 (水)	15	オフィスヒューマン代表 杉山久美子
			11月9日 (木)	16	社会保険労務士 佐竹 康男
	しめ縄づくり体験教室		11月29日 (水)	18	長岡シルバー人材センター会員 藤井 則男
	家族で楽しむクリスマスコンサート		12月16日 (土)	114	「V I V O（ビーボ）」代表 磯田 泰子
	楽しい手作りおもちゃ・人形づくり		1月11・18・25日 (木)	37	人形劇団 辻野 明子
	パソコン講座	基礎	6・7月 (水)	116	社会人講師 水野 敬一 下山 士郎
		ワード	8月 (金)	96	社会人講師 山本由美子 近野 祐子
		エクセル	9月 (金)	94	社会人講師 山本由美子 近野 祐子
		ワード・エクセル	10月 (金)	92	社会人講師 山本由美子 近野 祐子
		再就職のための実践パソコン講座	11月 (金)	94	社会人講師 山本由美子 近野 祐子
健康づくり	ストレッチ体操でストレス解消		6月16日 (金)	36	スポーツインストラクター 大倉奈保美
	ヨーガで健康いきいき体験		7月14日 (金)	35	日本ヨーガ禅道友会教師 奥山 圭子
	太極拳に挑戦 体験講座		9月5日 (火)	49	日本武術太極拳連盟公認指導員 釘持 久子
	今話題のアロマテラピー体験講座		11月1日 (水)	20	アロマテラピー講師 中辻 美穂
安全	あなたの財産大丈夫！		7月7日 (金)	37	市民共同法律事務所 弁護士 大脇 美保
親子体験学習	陶芸教室		7月23日8月6日 (日)	104	趣味の陶芸家 吉田 順一 植田 恭司
	科学マジック		7月27日 (木)	37	向日市立寺戸中学校 教諭 開田 浩樹
	親子でエアロビクスに挑戦！		8月1日 (火)	13	ミュキフィットネス研究所 松久ミュキ
	ビーズでかざろう		8月3日 (木)	18	ビーズ講師 森田富貴子 石見 彰子
	楽しく作ろう木工教室		8月11日 (金)	14	京都府立北桑田高等学校 教諭・生徒
館外	女性リーダー研修	長岡中央公民館	11月22日 (水)	124	京都府社会教育委員 大木 満和
合 計			80講座	1,693	

平成19年度 府立婦人教育会館主催事業一覧表

事業名		期 日	参加者人数(人)	講 師 名	
① ふれーる講座	共に生きる	分からないことを大切に	7月1日(土)	147	大阪大学 副学長 鷺田 清一
		「おもしろく」生きることへの挑戦	9月15日(土)	101	京南倉庫株式会社代表取締役社長 上村 多恵子
		現代と未来の夫婦と親子 ～男と女の交わりに関する民俗学からのアプローチ～	10月27日(土)	39	佛教大学 文学部 教授 八木 透
		団塊世代のこれからの生き方	12月1日(土)	40	福井県立大学 教授 大利 一雄
		「花」と人生～「蘭づくり」を通して～	12月8日(土)	56	元大山崎町教育委員会 教育長 黒崎 良吉
	社会問題	おとなが変われば子どもは変わる ～子育て・虐待・思春期の問題～	6月23日(土)	93	京都少年鑑別所 法務技官(精神科医) 定本 ゆきこ
		裁判員制度を考える	1月18日(金)	27	京都地方裁判所 刑事首席書記官 木崎 正
	子育て支援Ⅰ～Ⅲ	I: 子どもも自分も認めよう	5月26日(土)	25	国際コーチ連盟 プロフェッショナル認定コーチ 遠藤 範子
		II: お互いの違いを認める	6月16日(土)	21	
		III: 未来をつなぐ	7月21日(土)	14	
	ふるさとの歴史シリーズⅠ～Ⅳ	I: 地球史とは何か ～今を生きる者がふるさとの歴史を学ぶことの意義～	5月19日(土)	51	元山城町教育委員会教育長 山背古道探検隊長 中津川 敬朗
		II: 「倭国」の形成と古代以前の山城 ～弥生・古墳時代の考古学から～	6月9日(土)	52	京都大学大学院文学研究科助手 京都大学埋蔵文化財研究センター 伊藤 淳史
		III: 戦国時代を生きた女性たち (会場: 長岡京市立中央公民館)	11月3日(土)	186	京都橘大学 学長 田端 泰子
		IV: 南山城の俳諧と乙訓の近世文化	11月23日(金・祝日)	31	京都府立山城郷土資料館 主任 伊藤 太
	中高年の健康づくり	ヨガで健康いきいき体験	5月25日(金) 6月22日(金) 7月20日(金)	129	日本ヨーガ禅道友会教師 奥山 圭子
		始めよう! 心の健康づくり	1月31日(木)	23	京都府乙訓保健所 技師 中田 亮太
		メタボリックシンドローム(生活習慣病)について	1月26日(木)	32	京都府乙訓保健所 所長 小川 史顕
	読書	人生の中の読書 ～IT時代になぜ本を読むのか～	9月1日(土)	51	子どもの生活文化研究家 梓 加依
	文化教養	そば打ち体験	8月25日(土)	16	(有) かやぶきの里取締役 中野 邦治
		剪画に挑戦 ～来年の干支(ねずみ)を作る～	11月7日(水)	26	日本剪画協会副会長 大月 透
		お茶の歴史と文化	11月17日(土)	28	日本茶インストラクター 林屋 和夫 松石 美重子
		歳末コンサート ～親子で歌とピアノを楽しもう～	12月15日(土)	161	歌: 渡部 啓子 ピアノ演奏: 渡部 計二
	安心安全	安心安全な生活 ～AED(自動体外式除細動器)の使用及び救急処置	6月2日(土)	29	乙訓消防組合 長岡京消防署 救急隊員
		くらしの安全 ～自転車の安全利用～	7月14日(土)	19	京都府向日町警察署 交通課 職員 長岡京市土木課交通対策係 職員
	親子体験学習	陶芸教室(小3～6年)	7月22日(日) 8月5日(日)	108	趣味の陶芸家 吉田 順一 植田 泰司
		昔のおもちゃ作り(小3～6年)	7月27日(金)	24	奈良大学文学部史学科非常勤講師 安田 真紀子
		科学マジックⅠ(小1～3年)	8月2日(木)	48	向日市立寺戸中学校 教諭 開田 浩樹
		科学マジックⅡ(小4～6年)	8月7日(火)	35	
② 社会参加支援事業	再就職準備セミナー	カラーコーディネートで素敵な自分発見	10月2日(火)	24	オフィスサカイ 代表 酒井 淑恵
		実践! 再就職へのシナリオを作ろう	10月3日(水)	7	再チャレンジサポートコンサルタント 岸中 聡子
	パソコン講座	基礎(4日×2回=8回)	6・7月(水)	104	ボランティア講師 水野 敬一 下山 士郎
		ワード: ステップアップ1	8月(金)	92	ボランティア講師 山本 由美子 近野 祐子
		エクセル: ステップアップ1	9月(金)	96	
		ワード・エクセル: ステップアップ2	10月(金)	92	
		再就職のための実践パソコン	11月(金)	84	
			75講座	2,111	

◆ 社会教育委員会議検討経過

第1回	平成19年 8月28日(火)	15時30分～17時30分	ガーデンパレスホテル
第2回	平成19年11月27日(火)	13時30分～15時30分	京都府公館
第3回	平成20年2月7日(木)	13時30分～15時00分	京都府公館

◆ 府立婦人教育会館利用者意見聴取

1 意見聴取対象

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 乙訓地域女性団体代表(2市1町) | 3名 |
| ② サークルでの会館利用者から公募で選出 | 13名 |
| 内訳 男性5名、女性8名 | |

2 意見聴取日

第1回	平成19年10月23日(火)	15時～17時	府立婦人教育会館
第2回	平成19年11月8日(木)	10時～11時30分	府立婦人教育会館

◆ 京都府社会教育委員名簿

(50音順)

氏 名	役 職 等	備 考
伊 藤 悦 子	京都教育大学教授	
大 木 満 和	(有) 常吉村営百貨店代表取締役	
大 庭 聡	(株) 大庭工務店代表取締役	
加 藤 寛	京都府立福知山高等学校校長	
川 崎 純 性	宗教法人六波羅蜜寺住職	
小 寺 正 一	兵庫教育大学特任教授	議 長
下 田 敏 晴	南丹市立美山中学校長	
竹 田 隆 司	京都府 P T A 協議会会長	
中 澤 猛	京都府公民館連絡協議会副会長	
西 岡 正 子	佛教大学教授	副議長
堀 池 香 代	子どもの体験活動指導者	
本 郷 弥 香	和紙ちぎり絵作家	
槇 村 久 子	京都女子大学教授	
吉 岡 美紀子	京都府連合婦人会理事	
吉 川 泰 子	京都府立高等学校 P T A 連合会顧問	